

五高新聞

平成25年度 第4号

発行：五島高校新聞部

私たちの歩み

五島高校文化祭 『五高祭』

9月7日(土)・8日(日)開催

「実行委員から皆さんへ希望を届けます。」

当日、校舎入り口には、テーマが大きく描かれた巨大垂れ幕やスズランテープを利用した空間装飾が彩った。また、校舎内でも階段アートやパネル展示が普段と異なる空間を演出した。オープニングセレモニーでは、この日のために結成さ

希望とは
自分が「今」という時間を生きているということ。これを証明することは簡単ではない。しかし、過去を振り返り、未来を見据えることで自分の人生に希望を持つことができる。
九月七日、八日に五島高校文化祭「五高祭」が行われた。「希望（みち）歩み」を止めるな、今の自分のテーマのもと、私たち五高生は自分の人生と全力向き合い、全員で希望を共有した。四月に結成された五高祭実行委員会が運営を担い、各文化部・各クラスもステージ発表や展示発表の準備を行ってきた。



オープニングを飾ったバンド演奏



五高祭実行委員長 なつも 中村 夏望さん

生徒主体
その後、体育館やメモリアルホール、各教室等では各文化部、各クラスによるステージ発表及び展示発表が行われた。また、屋外ステージでは実行委員会企画が行われ、カラオケ大会や、大喜利等で会場を盛り上げた。全ては、生徒主体であった。自分たちで考え、自分たちで行う。そのとき、先

に満足して「いますか」等の問いかけがなされた。五高祭を通して「現在、過去、未来」の自分に五高生全員が向かい合った。



本番に向け準備を進める実行委員たち

発信するということ

生方はアドバタイザーとして生徒をサポートするのだ。壁にぶつかつた時は、仲間と共に試行錯誤し乗り越える。乗り越えられそうにないならば達成感を得られない。全員が協力し希望を持つことの重要性は準備期間中、すでに各々の心の中で理解できていたのかもしれない。

五高写真館

体育館で行われた体育祭。100m走に予定の生徒も二人三脚では駿足を発揮できず・・・。(檜)

☆撮影地：五島市中央体育館 (体育祭)



エンディングセレモニーでの全校合唱

「降」
過去があるからこそ現在があり、現在があるからこそ、未来がある。歩みを止めてはならない。自分だけの「希望の道」を歩んでいきたいものだ。

五島人



代表 金澤 竜司 さん

「一歩一歩確実に」

「一歩一歩確実に」ご自身の体験談も交えながら質問に答えてくださった。その言葉の一つひとつは何か特別な力を持っているように話を聞いている私たちも自然とうなずいていた。

今回「五島人」として私たちが取材をお願いしたのは富江に本社を構える『金沢鮮魚』の代表・金澤竜司さんだ。金沢鮮魚は現在販売だけでなく、加工業への経営の拡大を進めている。



事業拡大に向け準備中の金澤さん

早く取材を受けられてくださった金澤さんはまるで私たちのひと時の「先生」のようなだった。人口の減少などの課題がある中、ここ五島で働くことについて金澤さんに話を伺った。

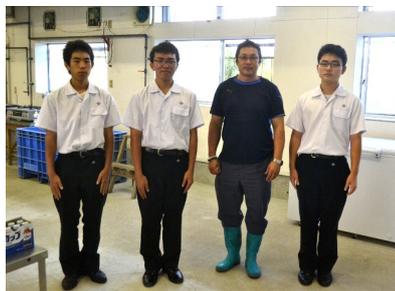
世界とのつながり

金澤さんに、様々な課題を抱える五島で、金沢鮮魚がどのように経営しているのかを尋ねると「他人と同じことをしていても何も変わらない。他人より先に行くんだ」と語ってくださった。金沢鮮魚は五島のみならず関西や関東そして海外へと事業の範囲を広げている。例えば、魚市場で競りをしていくときでさえ周りには情報が溢れている。そういう情報をキャッチできる『アンテナ』を張ることが販売には必要になる。私たちは金澤さんの視野の広さに驚かされた。

ひとりの父親として

毎年、五島の高校を卒業する人のほとんどが五島を離れていく。金澤さんも今まで多くの卒業生を見送ってきた。そのことについては「島で働いてもらいたい気持ちもあるが、本人の気持ちを大切にしたい」と切実な思いを語ってくださった。金澤さんも今年十九歳になる息子さんをお持ちで一人の親としての意見

を聞くことが出来た。また「島に仕事がないと、島を離れた若者は帰って来れない。だから今、事業を拡大していることは、若者たちにとっても意味があることだ」と思っている」と金澤さんは五島の将来を見据えた明確なビジョンを私たちに語ってくれた。



金澤さんと新聞部員たち

五高生への想い

最後に、五高生へのメッセージをお願いすると「叶えたい夢を求め、何でも良いから志を貫いてもらいたい」として「何をするのに止まっちゃいけない」と語ってくださった。私たちが対してエールを送って下さっているように感じた。今回の取材を通して、金澤さんの言葉からは努力の積み重ねの大事さがひしひしと伝わってきた。五高生にも学習や部活動の努力が無駄ではないということを感じてもらいたい。(降)

「より良い五高とは」

対談企画

2学年主任(山口先生) 生徒会長(岩永さん)



より良い五島高校とは。そのためには今、何が必要か。今回、第二学年主任の山口一守先生と生徒会長の岩永莉奈さんにこのテーマで対談をしていただいた。

五高生の素晴らしさ
山口 フレンドリーな子がいっぱいいると思います。友達にならないうち、その友達を思う気持ち、友達の絆を大切にしたいですね。山口 素直という印象がありますね。全学年素直さを持って、先生と接してくれてると思います。先生との距離も近いですね。

五高が抱える問題点
山口 どうしても離島という特徴があるので仕方ない部分だとは思いますが、さつき岩永さんが仲の良い小さい頃からお互い仲良くやってきて、大きな競争や環境が少なうまれました。今は感じる競争や環境の現実は激しい競争や環境の現実を打破しようとする。頑張っている人がたくさんいる。後者そんな人たちが社会で出会う時に、互角に渡り合える知識や人間性を今のうちに高めたいですね。

岩永 私は、マナーが少し悪いと思います。例えばバス停でバスを待つている生徒などがあまりよろしくないと思います。あいつでいって、全員声が大きくても、全員の声が大きくても、地域の方や先生方も保護者の方にも『礼儀正しい』と言ってもらえたら良いな、と思います。

今何が必要か
岩永 先生たちが主になって動くのではなくて、生徒

たちが主になって色々な活動をしていく必要があると思います。生徒同士で指摘し合ったり、自分たちで気付けたいところを、自分たちで見つけていくと思います。山口 色々な経験をすることが、大事なんじゃないかな。色んな刺激を受けること、色んな視野を広げる上で大切なことだと思います。色んな経験をしないと、目の前の出来事だけで凝り固まって欲しくないなあ。

最後に
山口 五高生ってめっちゃ忙しいですよ。学習も部活も時間がない中で、必死に頑張っているの、きついですよ。うける、是非、自分たちが違うことをして生活したい。岩永 私たち生徒は、先生を信じてついて行くしかありません。先生は、先生を信じてついて行くしかありません。(紅)

対談を終えたお二人
二人の想いを胸に、より良い五島高校を目指すため、自覚を行動に移す。



対談を終えたお二人